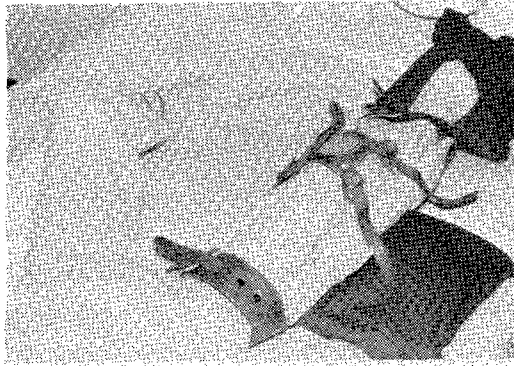


<まとめ>

DMP児にとって膝関節の拘縮変形をきたすということは、脊椎の変形による内臓器管の圧迫等諸問題の原因となることで、日中ではPTの指導のもとに入浴、気泡浴、機能訓練、下肢装具着用や斜面台、起立台による起立訓練等が行なわれているが、人生の為に占める睡眠中の姿勢の変形予防は重大な関心事である。

そのためにいくつかの用具を考察してみたが、尖足の予防とかみ合せ、病院での

生活が長くなり成長するに従って看護用具の工夫もそれに合せて行なわなければならないので更に検討していくつもりです。



13) 筋ジス患児(者)に適応する昇降式移動装置

国立療養所八雲病院

野口 房子 湯 浅 柄美子
佐 藤 リサ子

職員の腰痛予防のためと、患児(者)を安全、かつ安楽に運搬でき、排泄も容易とするために、昇降式移動装置を購入した。昇降式移動装置は、1.昇降は手動式、2.移動部、3.担架部(チェアユニット)からなっている。附属品のチェアユニットでは、種々の問題点があり試作改良し、次のような成果を得ることができたので報告する。

問題点として、1.頭受け20cm、背受け40cm、坐受けが38cmと狭くて硬い。

2.坐受けには排泄用の穴があり、坐位に固定されている。

3.下腿受けもなく、肘受けがパイプ製のため、安定性がない。

改良点、1.背受け、坐受け、下腿受けは取りはずし可能とし、巾はそれぞれ50cmで、スポンジ入りレザー張りとした。尚、背受け、下腿受けは押しボタンで、任意の角度に調節できる。

2.排泄用坐受けは、ベンラックの腰かけ板を利用し、必要に応じて坐受けと、とり換えることができる。

3.肘受けにはパイプを取りのぞいて落下防止のため安全ベルトを背受けと、下腿の部位

につけた。

考察 背受け、坐受け、下腿受けの調節が可能であるため、臥位、坐位のいずれの体位でも移動できる。尚ベッドの高さに昇降させることにより、患児（者）にいざる能力があれば移動でき、又、動けない患児（者）でもシーツを利用し、簡単に移すことができるので、抱きかかえが軽減される。排泄時腰かけは、スポンジ入りのため感触よく、るいそう著しい患児（者）でも安楽に使用できる。運搬の際には、ベルトを用いるので、患児（者）の落下を防ぐことができる。チェアユニットについては、改良することにより、ある程度の成果を得ることができたが、今後、昇降手動式、並びに移動部等について、検討、改良中である。

14) P M D 装 具 に 関 す る 研 究

1) 軀幹装具の改良

2) 下肢装具の改良

徳島大学・愛媛大学・徳島療養所

新 家 豊 野 島 元 雄

西 庄 武 彦 奥 村 建 明

軀幹変形に対して、また、下肢変形、歩行能力維持のために従来から装具療法を実施してきた。今回、これら装具について過去の使用経験にもとづき、新しい材質の導入と多少の改良を行っている。その成果の一端を報告する。

I 軀幹装具について

脊柱変形の研究と関連して側弯の予防、増悪阻止のため車椅子患者に対しての脊柱変形矯正装具を発表し応用してきた。(図1) 今回、ベッド上での患者に適した脊柱変形矯正装具を試作した。(図2) その特徴は金属フレームと軟いプラスチックで作り、軀幹保持部分と大腿部に分れていて、軀幹の背屈角度は調節式とし、股関節は開排、上下を自在とする機構として自由な坐位矯正保持機構をとることができる。

採型は作図式で行う。軽量で、取扱いは簡易である。後弯、中等度側弯の矯正が可能であり、その発主防止に有効である。患者の苦痛もなく長期装着しA D Lの向上に役立つものである。しかし、高度側弯、前弯変形のものには適応とは考えられない。

II 下肢装具について

従来のバネは長下肢装具の原則に従って、新しい装具材料による改良を行った。(図3) その特徴はプラスチックのオルソレンを用い、足関節の90°後方制動関節に代えた、膝継手にU C L A型関節を用いバネを短くコンパクトにした。支柱金属はオルソレンと直結し、靴型装具でなく、運動靴

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

職員の腰痛予防のためと、患児(者)を安全、かつ安楽に運搬でき、排泄も容易とするために、昇降式移動装置を購入した。昇降式移動装置は、1.昇降は手動式、2.移動部、3.担架部(チエアユニット)からなっている。附属品のチエアユニットでは、種々の問題点があり試作改良し、次のような成果を得ることができたので報告する。